

2020年度 第3回 京大本番レベル模試 国語(理) 採点基準

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。
a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

京大本番レベル模試 大問一

大問一 問一

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／内容説明の結び「くこと」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 7点

■模範解答

A

過去の人間に対して感性的、無媒介的に共感することは、

B

歴史から切り離された人間一般を想定することになってしまい、

C

共感し合う主体と対象の内部にそれぞれ存在する歴史性を捨象することになるから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄三行 一行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 過去の人間に対して感性的、無媒介的に共感することは…2点

・何が「困難」にさせるのかということについて、その主部にあたる説明がされていないものは、要素A加点数なし

■要素B 歴史から切り離された人間一般を想定することになってしまい…2点

・要素Aが「困難」になる理由として、『人間一般』が想定されるため」という説明がされていないものは、要素B加点数なし

■要素C 共感し合う主体と対象の内部にそれぞれ存在する歴史性を捨象することになるから…3点

・要素Bと合わせて、「歴史性が捨象されるため」という説明がされていないものは、要素C加点数なし

大問一 問二

■形式上の不備

- ・文末表現…要素E参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素E不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 12点

■模範解答

A

長い歴史の中で人間は自然を支配・統御しようとさまざまな改造をし、

B

人間にとっての利便性の向上や、自然の一部である人間自身の能力の開発をもたらしたが、

C

一方では、産業革命後の急速な改造によって、

D

生態系の破壊や、それにかかわって生じた人間自身の精神的荒廃をも生じさせ、

E

そうした制限の中に生きているということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄五行 二行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 長い歴史の中で人間は自然を支配・統御しようとするさまざまな改造をし…2点

・人間が自然に対する改造を行ったことの説明がされていないものは、要素A加点数なし

■要素B 人間にとっての利便性の向上や、自然の一部である人間自身の能力の開発をもたらしたが…2点

・要素Aの結果、人間の利便性が向上したこと、人間自身の能力も開発したことの説明がされていないものは、要素B加点数なし

■要素C 一方では、産業革命後の急速な改造によって…2点

・(要素AとBが長い歴史の中でなされてきたことに対し、産業革命後に急速な改造がなされたということの説明がないものは、要素C加点数なし

■要素D 生態系の破壊や、それにかかわって生じた人間自身の精神的荒廃をも生じさせ…3点

・要素Cで指摘した「急速な改造」の結果、生態系を破壊したこと、人間自身の精神的荒廃が生じたことの説明がされていないものは、要素D加点数なし

■要素E そうした制限の中に生きているということ…3点

・傍線部「制約されている」の言い換えがされていないものは、要素E加点数なし

大問一 問三

形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 7点

■模範解答

A

我々という存在は、外部を歴史によって取り囲まれ、内部を歴史によって満たされて
いるため、

B

自分自身が何者であるかということを知るためには、

C

人類全体の歴史を明らかにする必要があるから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄三行 一行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 我々という存在は、外部を歴史によって取り囲まれ、内部を歴史によって満たされてきているため…3点

・「私」と「歴史」の外部と内部でかかわっていることが説明されていないものは、要素A加点数なし

■要素B 自分自身が何者であるかということを知るためには…2点

・要素Aであるため、「私」を知るために歴史の理解が必要であることの説明(「私」の部分)がないものは、要素B加点数なし

■要素C 人類全体の歴史を明らかにする必要が生じるから…2点

・要素Aであるため、「私」を知るために歴史の理解が必要であることの説明(「歴史」の部分)がないものは、要素C加点数なし

大問一 問四

形式上の不備

- ・文末表現…要素E参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素E不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 14点

模範解答

A

「私」という存在の理解しようとして、人間一般を想定しても、それは感性的共感を得ることに止まってしまったため、安易に抽象的な人間性を求めようとするのではなく、

B

「歴史のなかに他者とともにある」という人間の本質的な存在のしかたを念頭に置き、

C

自己の存在に歴史被制約性があることへの理解につながる、

D

人類の歴史の総過程を見据え、

E

歴史の法則や社会のしくみなどについて根底から解明するということ。

採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄六行 三行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 「私」という存在の理解しようとして、人間一般を想定しても、それは感性的共感を得ることに止まってしまったため、安易に抽象的な人間性を求めようとするのではなく…2点

・「私とは何者なのか」の問いを、人間一般に求めても抽象化されてしまうので、それでは問いの答えに到達できないということを説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 「歴史のなかに他者とともにある」という人間の本質的な存在のしかたを念頭に置き…3点

・「私とは何者なのか」の問いは、「歴史のなかに他者とともにある」という人間の本質的な存在のしかたから考える必要があることを説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C 自己の存在に歴史被制約性があることこの理解につながる…3点

・歴史との関係性を「歴史被制約性」で説明していないものは、要素C加点数なし

■要素D 人類の歴史の総過程を見据え…3点

・要素Cから、「人類の歴史の総過程」に問いの答えを見出す必要性があることを説明していないものは、要素D加点数なし

■要素E 歴史の法則や社会のしくみなどについて根底から解明するということ…3点

・傍線部「徹底的にきたえあげる」の言い換えがされていないものは、要素E加点数なし

【二〇二〇年度 第三回 京大本番レベル模試理系第二問】

二

【採点基準】

問一 ベンヤミンの著作には、非常に敏感な方法意識を持って工夫された多彩な表現が用いられており、その方法意識の理解なしに正しい理解はできないということ。(72字)

・①≡5点、②≡5点。(計10点)

① ベンヤミンの著作は、非常に敏感な方法意識を持って、常にさまざまに表現が工夫されている。この説明ができていること。単に「自由な発想や多彩な表現」とだけして、「敏感な方法意識を持つ」という要素に欠けるものは2点。「ベンヤミン特有の表現 (or 一般的な方法と一線を画する表現)」などとだけして、その内容に触れていないものは不可。

② ベンヤミンの方法によらず、受け手の側からの一方的な理解では正しく理解することはできない。この説明ができていること。単に「理解不能」とだけして、「ベンヤミンの方法によらず (or ベンヤミンの意識・方法の理解なくして)」という要素に欠けるものは2点。

問二 自由に設定されたさまざまな目的に使用することのできる手軽な道具として、方法というものを単純に捉えてしまうこと。(55字)

・①〓4点、②〓4点。(計8点)

① へ方法は、さまざまな目的を解決するために利用されるに過ぎない。ことの説明ができていないこと。「自由意思に任せた目的」など、辞書の意味そのものでも可。「いかなる目的・どのような目的」などの表現でも可。

② へ方法は、単なる手段にすぎないと単純に考える。ことの説明ができていないこと。「深い意味を持たない単なる道具」・「目的の解決にさえ役立てばよいもの」・「問題解決の手段以上の意味を持たない」・「軽はずみに利用できる道具」・「十分な議論なく使用できる道具」などの表現でも可。

問三 時代の風潮としては説明しきれないベンヤミンの歴史、物語りの方法の基本姿勢を、彼の処女作と絶筆の双方を通して見ることは、ベンヤミンの用いた方法を理解すると同時に、その方法をベンヤミンを理解することそのものに適用することをも可能とすることができるということ。(123字)

・①＝3点、②＝3点、③＝3点、④＝3点。(計12点)

① へ処女作と絶筆を重ね合わせ、ベンヤミンの基本姿勢を見る。この説明ができていくこと。『認識批判的序章』と『歴史の概念について』によってベンヤミンの基本姿勢を透視する」などの表現でも可。

② へベンヤミンの歴史の、物語りの方法の基礎には時代の風潮と一線を画する特有のへブライ神学に基づく時間論がある。この説明ができていくこと。「ベンヤミンの基本姿勢が時代の風潮とは一線を画する特有のもの」という内容がわかれば表現の違いは許容する。

③ へそれによってベンヤミンの用いた方法を理解できる。この説明ができていくこと。

④ へそれによってベンヤミン自身を理解することもできる。この説明ができていくこと。「ベンヤミン理解を可能にする」・「ベンヤミンに近づくことを可能にする」などの表現でも可。

◆各設問共通

▲内容説明の設問では、末尾の句点がないものは▲1点減点。ただし、現代語訳の設問では、句読点は不問。

問一傍線部(一)を現代語訳せよ。(10点)

(模範解答) どうかあなたは、そんなに趣向を凝らして、技巧的すぎる華麗な歌などを詠まないでいただきたい。(10点)

A 〇7点

(あなたは) どうかそんなに…歌を詠まないでいただきたい(ないでほしい)。

B 〇3点

趣向を凝らした(技巧的すぎる・華麗な)歌

◆各加点要素の加点の条件【A・Bに関して部分採点】

A 「(あなたは) どうかそんなに…歌をお詠みにならないでいただきたい(ないでほしい)」(7点)

※「な…そ」の訳(婉曲的な禁止)

×「…ないでいただきたい(ないでほしい)」というような記述がなければ×。0点。

○「…ないでいただきたい(ないでほしい)」というような記述があれば、〇3点。

※「あそばす」の訳(尊敬語の代動詞)

△「歌をお詠みになる・歌を詠みなさる」というような記述がなければ×(3点)

○「歌をお詠みになる・歌を詠みなさる」というような記述があれば+2点(5点)。

※「いたく…打消」の訳

△「そんなに(それほど)…しないで」というような記述がなければ×(3点・5点)。

○「そんなに(それほど)…しないで」というような記述があれば+2点(5点・7点)。

B 「趣向を凝らした(技巧的すぎる・華麗な)歌」(3点)

※この「風情」の解釈

×「趣向を凝らした(風情を強調しすぎた・飾り立てた・技巧的すぎる・華麗な)歌」というような記述がなければ×。0点。

○「趣向を凝らした(風情を強調しすぎた・飾り立てた・技巧的すぎる・華麗な)歌」というような記述があれば、〇3点。

問二 傍線部(2)の和歌は、次の和歌(『貫之集』異同歌)を本歌とする本歌取りの歌であると考えられる。この貫之と俊成の和歌において、共通点とそれぞれの主題の相違点を説明せよ。(10点)

(模範解答) 時雨が降り、庵に雨が漏れてくる秋の守山を描写している点は共通するが、貫之が盛りの紅葉の美を主題としているのに対して、俊成は紅葉の中に生きていても美とは無関係な生活苦を主題としている点が相違する。(10点)

A 〇4点

時雨が(降り、庵に)漏れてくる秋の守山を描写している点は共通

() 『もるやま』を『守山』と『漏る』の掛詞として使っている点は共通() も可とする。()

B 〇3点

貫之が(盛りの)紅葉(の美)を主題としているのに対して

C 〇3点

俊成は(紅葉の中に生きていても美とは無関係な)生活苦(山での暮らしの悲哀)を主題としている点が相違

◆各加点要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A 「時雨が(降り、)庵に)漏れてくる秋の守山を描写している(詠んでいる)点は共通」(4点)

※共通する点「時雨が(庵に)漏れてくる秋の守山の描写」

() 『もるやま』を『守山』と『漏る』の掛詞として使っている点は共通() も可とする。4点

× 「時雨が(庵に)が漏れてくる秋の守山を描写している(詠んでいる)点は共通」というような記述がなければ×。0点。

○ 「時雨が(庵に)が漏れてくる秋の守山を描写している(詠んでいる)点は共通」というような記述があれば、〇3点。

B 「貫之が(盛りの)紅葉(の美)を主題としているのに対して」(3点)

※相違点1 「貫之は、紅葉(の美)を主題としている」

× 「貫之が(盛りの)紅葉(の美)を主題としている」という記述がなければ×。0点。

○ 「貫之が(盛りの)紅葉(の美)を主題としている」というような記述があれば、〇3点。

C 「俊成は紅葉の中に生きていても美とは無関係な生活苦を主題としている」(3点)

※相違点2 「俊成は、(美とは無関係な)生活苦(山での暮らしの悲哀)を主題としている」

× 「俊成は、(美とは無関係な)生活苦(山での暮らしの悲哀)を主題としている」というような記述がなければ×。0点。

○ 「俊成は、(美とは無関係な)生活苦(山での暮らしの悲哀)を主題としている」というような記述があれば、〇3点。

※傍線部(3)について、筆者藤原長綱は御子左家の歌壇の一員として、どのようなことを主張しているのか、説明せよ。(10点)

(模範解答) 六条家のように、研究者・評論家として和歌の知識・教養を追求するのではなく、御子左家のように、歌人は表現者として優れた和歌を創作することを第一とするべきだということ。(10点)

A 〇5点

(六条家のように) 研究者(評論家)として和歌の知識(教養)を追求するのではなく

B 〇5点

(御子左家のように) 歌人は(表現者として)優れた和歌を創作する(詠む)ことを第一(目標)とするべきだ

◆各加点要素の加点の条件【A・Bに関して部分採点】

A 「(六条家のように) 研究者・評論家として和歌の知識・教養を追求するのではない」(5点)

※六条家歌壇の否定「研究者・評論家として和歌の知識・教養を追求するのではない」

×「研究者(評論家)として和歌の知識(教養)を追求するのではない」というような記述がなければ×。0点。

○「研究者(評論家)として和歌の知識(教養)を追求するのではない」というような記述があれば、〇5点。

B 「(御子左家のように) 歌人は(表現者として)優れた和歌を創作することを第一(目標)とするべきだ」(5点)

※御子左家歌壇の主張「歌人は(表現者として)優れた和歌を創作することを第一(目標)とする」の掛詞の理解

×「歌人は(表現者として)優れた和歌を創作する(詠む)ことを第一(目標)とする」というような記述がなければ×。0点。

○「歌人は(表現者として)優れた和歌を創作する(詠む)ことを第一とする」というような記述があれば、〇5点。

※文末表現

「…(と言つ)こと。」となっていないものは減点1点。